みどころいっぱい

岩井温泉・蒲生・荒金周辺コース

ドライブコース

1 山陰海岸ジオパーク 海と大地の自然館

山陰海岸ジオパークの拠点施設の1つです。山陰海岸ジオパークの地形・地質やそこに暮らす生物について総合的に学ぶことができます。また、3D映像が上映されており、迫力ある山陰海岸の姿を館内でも見ることができます。
開館時間：午前9時～午後5時
休館日：月曜（祝日は翌日）、年末年始
※7/20～8/31の期間は無休
TEL.0857-73-1445

2 岩井温泉エリア

岩井温泉は、811年の開湯とされ、2011年（平成23年）に開湯1200年を迎えました。泉温は47.6℃で、源泉100%のお湯を楽しむことができます。ゆかむり温泉（共同浴場）あたりを断層が走り、その割れ目をつたって温泉が湧き上がっていると推定されています。また、頭に手拭いをのせ、数え歌（湯かむり唄）を歌いながら柄杓で湯を叩き、湯をかむる「湯かむり」の風習が伝わっています。

3 横尾の棚田

横尾の棚田は、地すべりによってできた緩斜面を利用して作られ、日本の棚田百選にも選ばれています。この棚田では1997年（平成9年）から地域の人たちで「いがみ田を守る会」が結成され、棚田オーナー制度を実施しています。県内外に多くのオーナーの方々がおられ、様々な行事への参加を通して、棚田の保全に取り組んでいます。※「いがみ田」は「ゆがんだ田」の意味で棚田のこと。

4 国史跡「山陰道・蒲生峠」

山陰道は京都から山陰へ通じる道で、蒲生峠越は新温泉町千谷から岩美町塩谷へ通じる道として利用されてきました。今も石畳が残るなど、往事をしのばせる道です。1996年（平成8年）には歴史の道百選に指定され、2005年（平成17年）には国の史跡に指定されました。

5 旧岩美鉱山跡

この鉱山は荒金鉱山とも呼ばれ、和同年間（710年頃）、元明天皇に銅を献上した際に「荒金」と命名されたと伝えられている、日本でも最古級の鉱山です。坑道の総延長は29.2kmもあります。現在は鉱山抗排水処理施設となっており、坑道の一部を見学できます。※見学希望の際は、下記にお問い合わせください。
TEL.0857-72-04266
（岩美町鉱害防止協会）

おすすめ 又助池（牧谷のカキツバタ群落）

縄文時代に内湾だったこの地域は、大谷の砂丘によってせき止められて湖となりました。さらに、蒲生川が運ぶ土砂により湖は沼地や湿地となりました。又助池は、浦富平野が湖だったころの名残です。この池には、カキツバタの群落をはじめとする豊かな生態系が残されており、鳥取県の自然環境保全地域に指定されています。

1 ゆかむりギャラリー・尾崎翠資料館

岩井温泉の西方寺で生まれた作家尾崎翠の作品の世界と生涯を、わかりやすく紹介している資料館です。直筆の書簡などの貴重な資料が展示され、岩美町内のゆかりの地なども案内されています。
開館時間：午前10時～午後5時
入館料：入館無料
TEL.0857-72-1431（花屋旅館）

2 西法寺（尾崎翠生誕の地）

作家・尾崎翠は、明治29年に母親の実家であるこの西法寺で生まれました。尾崎翠は、境内で遊んだ様子や温泉街の雰囲気などを作品に描いています。代表作の『第七官界彷徨』が映画化されると女性を中心としたファンが増え、斬新な手法で書かれた作品群は多くの読者から支持されています。

3 愛宕山展望台・ゆかむりの塔

東源寺の境内の登り口からおよそ10分で愛宕山展望台に着きます。展望台からは、岩井温泉や周囲の山々を一望することができます。ここにあるゆかむりの塔は、岩美町出身の彫刻家・山本兼文氏によるもので、「湯かむり」の様子をユーモラスにシンボル化したものです。

おすすめ 国史跡 岩井廃寺塔跡

約1300年前の白鳳時代に建てられたと考えられている大寺院の跡です。寺院の三重塔の心柱を支える大礎石が残されています。巨岩に開けられた穴は直径77.5cm、深さ32.7cmと日本最大級で、「鬼の椀」と呼ばれています。また、推定される塔の高さは31mほどあったと考えられています。

おすすめ 国史跡 鳥取藩浦富台場跡

江戸時代末期に、外国からの襲来に備えて各地の海岸沿いに砲台が設置されました。鳥取藩も8か所に砲台が設置されましたが、その一つが浦富海岸の台場跡です。鳥取藩の台場跡は5か所が残っていますが、因幡地域ではこの台場跡が唯一現存しているものです。

おすすめ おもしろ昆虫化石館

新温泉町海上地区は、昆虫化石の産地として知られており、おもしろ昆虫化石館ではそこで産出した化石をおもに展示している日本初の昆虫化石博物館です。
開館時間：午前9時～午後5時
休館日：月曜（祝日は翌日）
入館料：大人100円、子ども50円
TEL.0796-93-0888

ジオコラム 1 およし道路とトロッコ線跡

JR岩美駅から恩志橋までの約1kmの直線道路が「およし道路」です。この道路は、明治45年に岩井温泉木島屋旅館の女将木島よしが、当時の鉄道院総裁に強く陳情してできたものです。また、大正15年には、このおよし道路に沿って、岩井温泉駅と岩美駅の間に、3.4kmの岩井軌道（岩井町営軌道）が開通しました。この軌道は、温泉客の他に当時繁栄していた旧岩美鉱山（荒金鉱山）から鉱石を運ぶのに力を発揮しました。鉱山から岩井温泉駅までは、トロッコ線などを使って鉱石を運んでいたようです。このトロッコ線跡が岩美町真名と相山の間に残っています。いずれも、岩井温泉や旧岩美鉱山が繁栄していたことを物語るものです。

およし道路

トロッコ線跡

ジオコラム 2 岩美町の鉱山

岩美町の海岸線は主に花崗岩が分布しています。その南側には、およそ2000万年から500万年ごろの海に堆積した地層や、火山噴出物によってできた岩石などが見られます。これらの地層の割れ目に熱水が入り込み、鉱床が形成されました。岩美町では、蒲生川流域上流部や小田川流域の中・上流部付近に、岩井鉱山、岩美鉱山（荒金鉱山）、大宝鉱山、因幡銀山などの鉱山跡や鉱山にまつわる伝説が残っています。また、約1300年前に「因幡国から銅の鉱石が献上された」ことや、豊臣秀吉の時代に、生野銀山に次いで全国2番目の量の銀を因幡銀山から秀吉に納めていた記録があることから、この地域は古くから鉱業が盛んだったことがうかがえます。

因幡銀山跡 銀山村

ジオコラム 3 岩美町の焼き物

岩美町には5つの窯元があります。1855年に鳥取藩の焼き物の自藩内生産の保護開発を受けて創業した浦富焼をはじめ、岩井窯、延興寺窯、牧谷窯、真名焼の5つです。焼き物の産地では、それぞれの窯元が同じ土を使い、同じ焼き物を作っていることが多いですが、岩美町ではそれぞれがそれぞれの土を使い、5つの特徴的な焼き物を作り出しています。

浦富焼

クイズの答え

平安時代、811年の開湯とされています

岩美町商工観光課
tel.0857-73-1416

岩美町観光協会
tel.0857-72-3481

山陰海岸ジオパーク 海と大地の自然館
tel.0857-73-1445

［制作］山陰海岸ジオパーク推進協議会

最終更新日：2016.3.31